

2009年度
(2008年11月～2009年10月)

環境活動レポート

— あす未来の夢を技術と誠心まごころで築く —



大建住宅株式会社

DAIKEN Construction Co.,Ltd.

2010年1月

目 次

	会社概要	1
	対象範囲及びレポートの対象期間	1
	環境方針	2
	環境負荷の把握	3
	環境目標	3
	環境活動計画	4
	環境目標の実績	5
	環境活動の取組結果と評価	6
	環境関連法規への違反・訴訟等の有無	7
	今年度の考察および来年度の課題	7
	代表者によるコメント	7

会社概要

会社名	大建住宅株式会社
代表者名	代表取締役 大岡信夫
所在地	香川県丸亀市郡家町1032番地の1
電話番号	0877-28-7992
FAX番号	0877-28-8937
E-mailアドレス	daiken@daikenjutaku.co.jp
ホームページアドレス	http://www.daikenjutaku.co.jp/
事業内容	建築工事業 [香川県知事(特-17)第740号] 土木工事業 [香川県知事(般-17)第740号] 不動産事業 [香川県知事(9)第2113号] 一級建築士事務所 [香川県知事 第627号]
環境関連登録等	エコ・リーダーまるがめ登録 環境社会検定(e c o検定)合格者 1名
設立	1970年(昭和45年)11月20日
資本金	2,000万円
社員数	11名 (2010年1月現在)

対象範囲及びレポートの対象期間

対象範囲	大建住宅株式会社
レポートの対象期間	2008年11月～2009年10月

環境方針

環境理念

我が社は、顧客ニーズに対応した建設業を営むにあたり、
地域の自然環境と共生した事業活動を行う。

行動指針

我が社は、事業活動を通して環境保全に取り組み、
環境共生社会の形成・実現に向けて下記の取り組みを行う。

- 一．環境に配慮した住宅設計を推進する
- 一．事業活動にともなう環境負荷の低減及び環境保全を推進する
- 一．環境マネジメントシステムを推進する
- 一．環境関連法規を遵守する
- 一．環境コミュニケーションを推進する
- 一．従業員の環境教育を行う

2009年4月1日

大建住宅株式会社

代表取締役 大岡信夫

環境負荷の把握



項 目	単位	2007年度	2008年度
ＣＯ ₂ 排出量	kg-CO ₂	58,407	55,272 (94.6%)
電力使用量	k W h	32,391	31,892 (98.4%)
ガソリン使用量	L	14,868	14,268 (95.9%)
軽油使用量	L	1,934	1,352 (69.9%)
ガス使用量	k g	46	50 (108.6%)
灯油使用量	L	280	300 (107.1%)
廃棄物排出量	t	52.2	47.2 (90.3%)
水道使用量	m ³	153	177 (115.6%)

() 内：前年比

環境目標

項 目	単位	目標値		
		2009年度	2010年度	2011年度
ＣＯ ₂ 排出量(※)	kg-CO ₂	54,200	53,100	52,000
電力使用量(※)	k W h	31,200	30,600	30,000
ガソリン使用量(※)	L	14,000	13,700	13,400
軽油使用量(※)	L	1,320	1,290	1,260
ガス使用量	k g	50	50	50
灯油使用量	L	300	300	300
廃棄物排出量(※)	t	46	45	44
水道使用量	m ³	177	177	177

※は前年比▲2%を目標数値としている

環境活動計画



環境に配慮した住宅設計の推進

- ・ お客様へのプレゼン資料を作成し、省エネ型の設備機器や照明器具の多用を薦める



電力使用量削減

- ・ 昼休み時の消灯及びエアコンの電源オフ
- ・ エアコンの温度設定(冷房28℃・暖房20℃)の徹底



ガソリン・軽油の使用量削減

- ・ 香川県主催のエコドライブ講習会へ参加(年1回)
- ・ 朝礼時に「エコドライブ10のすすめ」の当月目標を呼びかける
- ・ 「エコドライブ10のすすめ」を事務所及び車内に掲示
- ・ 燃費計算によるデータを採取し、意識向上を呼びかける



廃棄物の分別・適正処理及び排出量の削減

- ・ マニフェストの適正発行による分別・適正処理状況確認
- ・ 各種廃棄物のリサイクル化による有効利用率向上
- ・ 廃棄物の排出量(分類別・総量)のチェック



地域での環境普及活動

- ・ 建設業協会主催の清掃活動(年3回/各2名参加)
- ・ 会社前の側溝清掃(年1回/全員参加)



従業員への環境教育

- ・ 環境方針カードの携帯
- ・ 朝礼時に環境方針の唱和
- ・ 事務所及び現場事務所に環境方針の掲示
- ・ 各種技能講習への参加
- ・ 丸亀市主催の環境講演会(年2回/各2名参加)

環境目標の実績

項 目	単位	2008年度 実績値	2009年度		
			目標値	実績値	達成状況
CO ₂ 排出量 (前年比)	kg-CO ₂	55,272	54,200 (▲2%)	48,423 (▲12%)	○
電力使用量 (前年比)	kWh	31,892	31,200 (▲2%)	29,581 (▲7%)	○
ガソリン使用量 (前年比)	L	14,268	14,000 (▲2%)	12,159 (▲15%)	○
軽油使用量 (前年比)	L	1,352	1,320 (▲2%)	1,388 (+2%)	×
ガス使用量 (前年比)	kg	50	50 (0%)	45 (▲10%)	○
灯油使用量 (前年比)	L	300	300 (0%)	0 (-)	※1
廃棄物排出量 (前年比)	t	47.2	46.0 (▲2%)	251.5 (533%)	※2
水道使用量 (前年比)	m ³	177	177 (0%)	138 (▲22%)	○

※1 灯油使用量の2009年度の数値が「0」になっているのは、当社では購入量にて把握をしているが、2009年度は前年残量を使用したのみで購入していない為。

※2 廃棄物排出量は、事務所と建設現場の発生分の合計になっている。

又、2008年度は解体業者扱のものは把握されていないが、2009年度からは把握している為数値が増加している。

環境活動の取組結果と評価

取 組 項 目 ・ 実 施 内 容		取組結果	評 価
環境に配慮した 住宅設計の推進	お客様へのﾌﾟﾚﾝｼｮﾝ資料を作成し、 省エネ型の設備機器や照明器具の多用を薦める	△	ﾌﾟﾚﾝｼｮﾝ資料を作成する為の 勉強会の開催を予定中
電力使用量削減	昼休み時の消灯及びエアコンの電源オフ	○	実行し、電気使用量を削減できた
	エアコンの温度設定(冷房28℃・暖房20℃)の徹底	○	実行し、電気使用量を削減できた
ｶﾞｰｼﾞﾝ・軽油の使用量削減	香川県主催のエコドライブ講習会へ参加(年1回)	○	3名参加できた
	朝礼時に「エコドライブ10のすすめ」の 当月目標を呼びかける	○	実行できた
	「エコドライブ10のすすめ」を 事務所及び車内に掲示	○	実行できた
	燃費計算によるデータを採取し、 意識向上を呼びかける	○	実行できた
廃棄物排出量の削減	マニフェストの適正発行による 分別・適正処理状況確認	○	実行できた
	各種廃棄物のリサイクル化による有効利用率向上	○	実行できた
	廃棄物の排出量(分類別・総量)のチェック	○	実行できた
地域での環境普及活動	建設業協会主催の清掃活動(年3回/各2名参加)	○	実行できた
	会社前の側溝清掃(年1回/全員参加)	○	実行できた
従業員への環境教育	環境方針カードの携帯	×	できなかった
	朝礼時に環境方針の唱和	○	実行できた
	事務所及び現場事務所に環境方針の掲示	×	できなかった
	各種技能講習への参加	○	のべ2名参加できた
	丸亀市主催の環境講演会(年2回/各2名参加)	△	各1名参加できた

会社前の側溝清掃活動



キックオフ



環境関連法規への違反・訴訟等の有無

大建住宅株式会社の事業活動において、環境法規に対する違反や訴訟はありませんでした。
外部からの指摘・苦情ありませんでした。

今年度の考察および来年度の課題

エコアクション21に取り組むにあたり、当社の環境への取組み自己チェックを行った結果、事務所としてCO₂排出量の多い順に、自動車のガソリン、電力量、軽油の順であった為、2009年度は前年比▲2%の目標を掲げた活動計画を立て、各種の取組みを行った。その結果、CO₂排出量▲12%の大幅な減少を達成した。ガソリン使用量においては、目標値の7倍以上である15%削減することができ、当初の目標を達成したと思われる。

また、電力量においても、目標値の3倍以上である7%削減することができた。これらは、事業活動全体の減少による影響も大きいと考えられるが、エコアクション21のシステムを導入することで数値として認識できた意義は大変大きいものである。

2010年度は、CO₂排出量を前年比▲3%に設定し、当社の事業活動そのものである環境に配慮した住宅設計を推進し、環境教育、環境保全を重視した事業活動をしていく考えである。

代表者によるコメント

地球温暖化に対して無意識でいられなくなった今、私たちに何ができるのかというところで、エコアクション21の環境マネジメントシステムに取り組み始めた。

環境への取組みの自己チェックを行い、当社として取組む点を明確にし、具体的な目標を立てて行動を起こすことが重要である、ということを改めて認識できた点が非常に大きかったと思う。そして、これらのPDCAサイクルを当社として常に回転させることで、当社が環境対応の会社に生まれ変わると考える。

次年度以降は環境に配慮した住宅設計をさらに推進すべく、省エネ型の設備機器や環境対応商品の最新情報を取得し、それらをプレゼン資料として取りまとめ、お客様に提案する。この活動を通して、エコ住宅や環境と共生した住宅の建設を増やしていく方針である。

最後に、エコアクション21の認証を取得することで当社に集う社員1人1人の環境に対する意識がさらに向上し、家庭や地域での諸活動にも広がることを期待するものである。